

堅果類豊凶調査とツキノワグマ出没予測について

鳥獣対策・ジビエ振興室

1 ツキノワグマの出没状況について

今年度は、4年に一度と言われる大量出没が懸念されているが、森林づくり県民税を活用した河畔林の伐採や観光地での注意喚起、クマの専門家による教職員への安全対策研修などの新たな人身被害防止対策により、人身被害件数は前年度より減少している。

	平成 30 年度	平成 29 年度	増減
目撃件数（～9月）	688 件	553 件	+135
人身被害件数（～10月）*	5 件	5 件	0

* 人身被害はすべて森林内での被害

2 堅果類豊凶調査とツキノワグマ出没予測

- (1) 県では、毎年ツキノワグマの秋期の主要な食餌となる堅果類（コナラ、ミズナラ、ブナ、クリ等）の結実等の状況を把握し、秋期におけるツキノワグマの出没予測の基礎資料としている。
- (2) 調査時期 8月上旬から8月下旬
- (3) 調査内容及び方法
 - ・ 各地域振興局職員が、県下 118 箇所における結実状況を目視により調査
 - ・ 調査結果を林業総合センター及び環境保全研究所で分析し、中部森林管理局における調査結果等と比較検討の上、堅果類の豊凶とツキノワグマの出没予測を公表

3 豊凶調査の結果

- ブナは大凶作～並作、ミズナラ、コナラは凶作から大豊作まで、地点ごと、また単木ごとのばらつきが大きい。
- クリ・クルミ類は、全県的に一定程度の堅果類の結実が見られる。

4 ツキノワグマの出没予測

- 全県では、全樹種に地点差があるものの、一定程度の結実が見られることから、**クマの大量出没の可能性は低い**が、全体に地点ごと、単木ごとの実りにばらつきが大きく、餌を求めてクマの行動範囲が広範に及ぶ可能性があり、**キノコ狩りなどで入山する場合は、遭遇の危険がある**ので注意が必要
- ナラ類の着果量が少ない浅間山麓、木曾地域では、**森林に近い農地周辺などで里地のカキやクリなどを求めて出没が増える可能性があり**、十分な注意が必要

5 予測結果の活用

- 調査結果については、中部森林管理局とも共有し、平成 30 年 9 月 21 日（金）に公表するとともに、報道機関や市町村等を通じて人身被害防止に関する注意喚起を実施